

高齢者の快適生活

～高齢者社会を支えるネットショップについて～

広島経済大学経済学部
ビジネス情報学科
1814061
坂田花佳

論文要旨

現在日本では少子高齢化が深刻化している。子どもの数が減り高齢者が増えていくことは日本に大きな問題が生じる。少子高齢化を今すぐに止めることはできない。しかし、この問題について何らかの対策をすることはできる。高齢者に対して今私たちができること、なにをしなければいけないのか等、高齢者の視点に立って考察していく。その中でも特に力を入れた対策がある。それは、高齢者の生活を快適にするために、インターネットと高齢者をつなぎ高齢者に便利な生活を送ってもらうことだ。この論文を通してより多くの若者たちが高齢者に対しての考え方などが変わればいい。高齢者を救えるのは私たち若者なのだから。

内容

1. はじめに.....	1
2. ネットショップのはじまり	2
2-1 ネットショップとは	2
2-2 メリット・デメリット.....	4
3. インターネットを利用しやすく、快適に.....	6
3-1 高齢者にやさしいインターネット.....	6
3-2 ユーザービリティ・アクセシビリティ.....	8
3-3 タッチパネルでネットショッピング.....	9
4. 高齢者社会を背景に	10
4-1 高齢者の生活	10
4-2 高齢者の今後.....	11
5. 高齢者を支える	12
5-1 高齢者が快適な暮らしをするために	12
5-2 私たちの課題.....	12
6. おわりに.....	15
参考文献	16

1. はじめに

少子高齢化が進む中、私たち若者は今何をすべきなのか。日々便利になっていく世の中で高齢者を支えながら生きていかなければならないということを認識している人はどれくらいいるのだろう。インターネットが普及し、ネットにつなげば様々なことができるようになり、私たちの暮らしはさらに便利になった。

インターネットに繋がると、ニュースを見たり、動画を見たり、ゲームをしたり、音楽を聴いたり、さまざまな情報を世界規模で見ることができる。そんな中、私が着目したことはネットショッピングだ。お店に行かなくても欲しいものがネットで探せ、クリックひとつで手に入る世の中になり、ますます快適な暮らしを送ることができるようになった。

そのネットショッピングを幅広い年齢層に利用できたらいいと考える。

そこで注目したのは高齢者社会だ。これから、高齢者の人数が増えていき、私たち若者が高齢者を支えながら生きていかなければならない。支えるといっても私たちにできることは何なのかと考えたとき、自宅に居ながら、ショッピングができるネットショップを高齢者のみなさんが利用できれば良い。ネットショッピングは様々な企業が行っており、どのサイトから購入すればいいのかなど悩む方がたくさんいると思う。まして、高齢者が莫大なサイトから一つを選んで、買い物をするのはとても困難なことだ。支払方法や購入の仕方など分かりにくい部分が多々あるので、私はもっと高齢者でも手軽に買い物ができるようなサイトを作るべきだ。また、自宅に居ながら買い物ができる点などを高齢者に認識してもらうことが大切だ。自力で歩くことのでない高齢者や外に出ることができない高齢者などに便利で快適な生活を送ってもらいたい。高齢者に優しい環境、社会を私たち若者が作るべきだ。

現在は、福祉、医療さまざまな機関で高齢化社会を支えようとしている。しかし現実には厳しく、なかなかうまくいっていない。

日本は世界ではまれな高齢化が深刻に進んでいる。また、一人の高齢者を支えている働き手の数は 5,9 人。しかし 30 年後には働き手 2,3 人で一人のお年寄りを支えなくてははいけません。この事実を深く理解し、高齢者に対しての意識改革をしなければいけません。このままでは高齢者たちが暮らしにくくとても生きにくい社会になってしまう。

第二章では、ネットショップがいつ始まったのか、ネットショップとは何なのかを述べる。また、メリットやデメリットについても触れる。第三章では、高齢者に優しいインターネットについて、ユーザービリティ、アクセシビリティについて述べ、自らの考えを述べる。第四章では、現在の高齢者世帯の生活を考えた上で高齢者の生活の今後について述べる。第五章では高齢者が快適な生活を送れるように私たち自身が今できること、今後しなければならないことを述べ、高齢者に対しての意識を高める。第六章では私自身が高齢者に対しての思い、インターネットと高齢者の結びつきについてまとめる。

2. ネットショップのはじまり

ネットショップとはどういうものなのか、利用率やメリットとデメリットについて述べる。

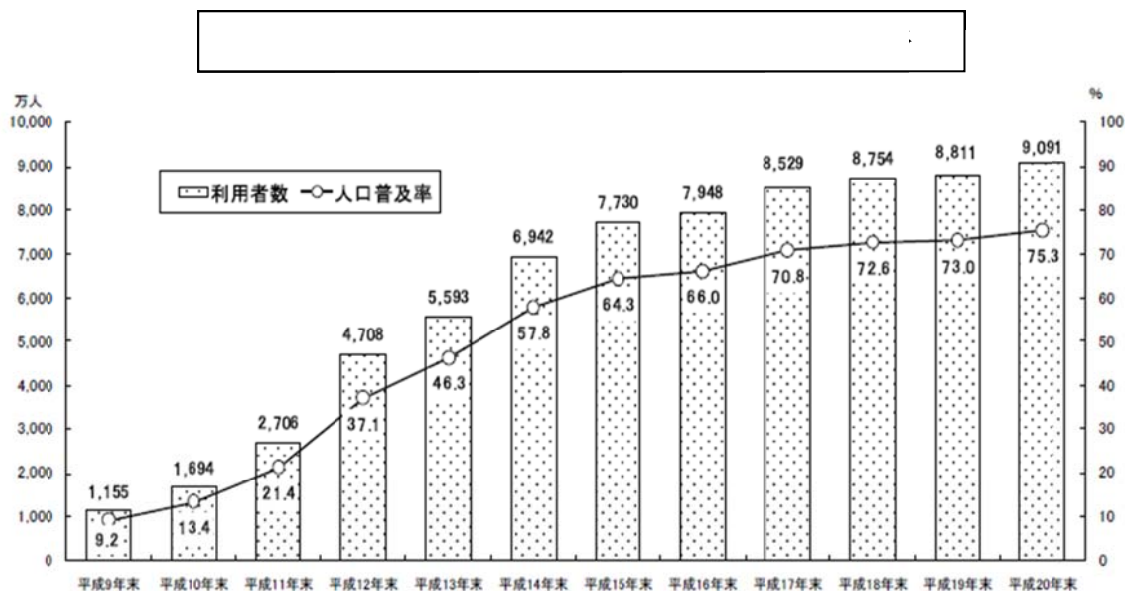
2-1 ネットショップとは

ネットショップとは、ネット上に商品を掲載し、自宅にいても買い物ができる快適なシステムである。まだ十数年しか経ってない。インターネットショップが新聞等で話題になり始めたのが1997年くらいであり当時は、インターネット自体がやっと一般の方にも普及し始めた頃で、誰もがインターネットショップで買い物をする時代ではなく、一部のマニア向けだった。急速にインターネットショップが増え始めたのは、2000年に楽天が上場したあたりである。当時、インターネットショップは、低資本で参入でき、売上もうなぎのぼりに増えて行くと誰でも思った時代だった。

(引用 <http://www.e47-4147.com/isa/ishop100/netshophistory.htm>)

現在は、インターネットが普及し、容易にネットで買い物ができる時代に突入したが、まだまだネットショップを利用したことのない人もいることを忘れてはならない。総務省の調べによると2006年、インターネット利用人口は2006年末で8754万人である。(表1参照)

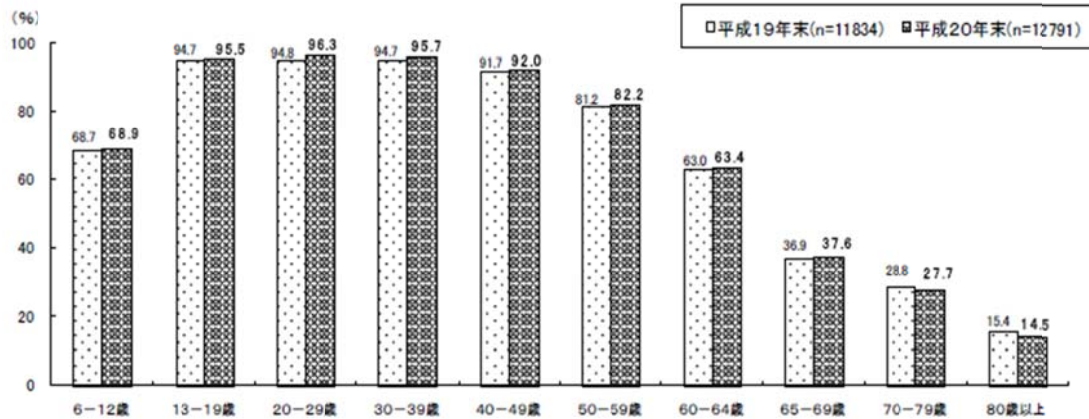
インターネット利用度(表2参照)は、10代から30代で約70パーセントであり、40代から50代になると、利用度はやや落ち込む傾向にあり、60代に至っては急激に減少してしまう。しかし、ネットショップの利用人口は全体の92パーセントであり、高年齢の方々にネットショップが広まればもっと利用人口は増え、市場規模もさらに大きくなると思う。



出典：総務省 平成20年「通信利用動向調査」より

用率

○世代別



出典：総務省 平成20年「通信利用動向調査」より

2006年のネットショッピングの市場規模は4兆2,980億円、成長率は27%である。これから先、ネットショッピングの市場規模は拡大していくと思う。自宅に居ながら買い物ができ、好きな時にいつでも買い物ができる点では現代人に欠かせないものだと思う。若い人たちがネットショップを利用するのではなく、高齢者の人たちにもネットショップを利用してもらえると、高齢者の人たちの生活も改善され、経済も安定していくと思う。

2-2 メリット・デメリット

ネットショップのメリットについて述べようと思う。

- ・ 24 時間営業
- ・ ネットショップと実店舗の比較
- ・ 配達をしてくれる
- ・ 価格が安い
- ・ 商品を探すのが簡単
- ・ 商品が豊富
- ・ 近くの店では無い商品が購入できる
- ・ 店頭で買いにくい商品が買える

ネットショップの最大の魅力ともいえるのは、24 時間営業ではないだろうか。普通のお店は、夜になると閉まって買い物ができなくなるが、ネットショップは時間に左右されることなく何でも購入することができる。また、大きい買い物でも配達をしてくれるので、気軽に大きなものを購入することができる。そして、実店舗とネットショップを比較して買い物をすることができるのも魅力の一つである。また直接お店で買うよりも商品が安く買えることがある。お店では購入しにくい商品（育毛剤・カツラ・ダイエット食品など）をネットでは気軽に購入することができるのもネットショップならではの魅力である。

しかし、ネットショップが良いことばかりではないことをみなさんにご存じだと思います。ここでデメリットをいくつか挙げてみます。

- ・ 試食・試着が出来ない 思っている味やサイズでない場合がある。
- ・ 買ってから商品が届くのに時間がかかる すぐに食べれない・着れない。
- ・ 色々な事を聞くのが面倒 メールなどで質問する必要がある。
- ・ 見た目と違う場合がある 思っていた色を少し違うなど。
- ・ 送料がかかる
- ・ セキュリティ（クレジットカード番号や個人情報）が心配
- ・ 商品の写真や説明がわかりにくい
- ・ どのショップが信用できるかが不明

デメリットはまず画面上でしか商品を見ることができず、実際に見た感じと違うことが多々ある。また、お店で購入するのと比べて、ネットショップは購入してから手元に届くまでに時間がかかってしまい、すぐに利用することができない。また、商品を購入した場合に料金を支払うのだが、クレジットカードなどの個人情報を入力する必要があるので、個人情報を流出などが心配

される。後は、ネットショップと言ってもネット上には莫大なネットショップがあり、どのサイトを利用すればいいのか選別も難しいのが現状である。

このようにネットショップは良いことも悪いこともあるのだが、うまく付き合っていくのはそう難しいことではない。しっかりとネットショップの仕組みや知識を取り入れておけば、快適なショッピングを楽しめるのである。

3. インターネットを利用しやすく、快適に

本章では、高齢者に対してインターネットを利用しやすいよう、どのような点を改善していけばよいのか、また、高齢者に対してやさしいインターネットとは何なのかを述べる。

3-1 高齢者にやさしいインターネット

高齢者のインターネット利用率は他の世代と比較しかなり低い、どのようにすれば高齢者が手軽にインターネットを利用することができるのだろうか。高齢者向けにある会社がインターネットの講習会を開いた。そこで高齢者たちがインターネットについてどのように思っているか調査したところ、「何となく怖い、難しいに違いない」と抵抗意識がかなり強いことが明らかになった。しかし抵抗感はあるものの、使いこなせるのであればインターネットを利用したいと思っている高齢者が少なくはないことも明らかになった。

また、どのような目的でインターネットを利用したいかについても聞いたところ、

- ・趣味・娯楽のため
- ・情報収集のため
- ・高齢化に伴う心身の諸機能低下を防ぐため
- ・世の中の動きに遅れないようにするため
- ・交流範囲を拡大するため

などの理由が挙げられた。

高齢者の方々が、趣味や娯楽を、インターネットを通じて楽しみたい、情報収集や世の中の動きを把握したいと考えていることに驚いた。こんなにも多くの高齢者の方がインターネットが使えたらこんなことをしたいと考えているのであれば、もっと高齢者に優しい環境を作るべきであろう。まずは、高齢者に対して行うインターネット講習会等の開催、インターネットを身近に感じてもらえる環境作りから始めるのがいいのかもしれない。

また、すでにインターネットを利用している高齢者は、新聞や雑誌等を読んで興味を持って始めたという方が半数を占めた。家族・知人・同僚等に薦められて始めた高齢者もある。

実際にインターネットを利用する高齢者にインターネットを利用して良かった点についての調査をしたところ、

- ・趣味や娯楽が増えた
- ・情報収集がしやすくなった
- ・交流範囲が広がった
- ・世の中の動きに敏感になった

など、インターネットを利用していない高齢者がインターネットに対する期待を叶えている結果になった。しかし、結果を見てもわかるように、高齢者はコミュニケーション図ることを目的を主としてネットショッピングに対する意識の低さが浮き彫りになった。

インターネットの他にもパソコンには様々な能力が必要になってくる。キーボードに入力するなどの操作能力（パソコンリテラシー）、マナーを守る、セキュリティを意識するな

どインターネットや電子メールを適切に利用する能力（インターネットリテラシー）、膨大な情報を自ら選択し処理する能力（情報リテラシー）などだ。これらを一から高齢者に教えるには莫大な費用と時間が必要とされるが、高齢者の生活が現時点よりも快適になるのであれば、やらなければいけないことである。以下ではこれらのうち、まず初めに取り組むべき課題であるユーザビリティとアクセシビリティについて述べ、そのあとで実際に高齢者にやさしいシステムについて述べる。

3-2 ユーザビリティ・アクセシビリティ

まず、ユーザビリティとは「使いやすさ」のことである。「ある利用者が、ある目的を達成するときの効果、効率、満足感」という定義もされている。使いにくければ、製品を利用したときの作業効率や、主観的な満足感が低いというのは、実感できるのではないだろうか。技術の進歩により、パソコンにも、携帯電話にも、次々と新しい機能が加わり、多機能化する傾向にあります。確かに多機能により便利になることも多いのだが、その反面、操作が複雑になり、使い方を理解するのに時間がかかるなどの問題も生じがちだ。情報機器、情報システムは用途や使い方が非常に多様であるため、単機能の道具や製品に比べて、どうしても使い方が難しくなりやすいのである。

(参照：ユーザビリティとアクセシビリティ 富士通)

総務省の調べ(平成 19 年度)によると高齢者のパソコン利用率は 23.0%であり、約 4～5 人に一人の割合である。¹利用率を上げるにはやはり高齢者への配慮が必要となってくる。しかしユーザビリティのターゲットユーザーが広いほど配慮は難しいと言われている。

高齢者は年齢を増すごとに、視力の低下、身体能力の低下など身体状態が下がるばかりで決して良くなることはない。モニタ上の小さな文字が読めなくなったり、細かなマウス操作が難しい場合がある。そのため、文字サイズはユーザが自由に変えられるようにする、また、リンク範囲は十分に取り、簡単にクリックできるようにするなど細かな配慮がたくさん必要になる。高齢者に対して配慮が必要になってくる主な項目を挙げてみると以下がある。

- ① 色への配慮(色を使い分けることでより見やすくわかりやすくする)
- ② 言葉への配慮(難しい言葉などは使わず、専門用語などには解説をつける)
- ③ 理解しやすいナビゲーション(サイト内検索や総合案内などをわかりやすく配置する)
- ④ 快適な速度(画像などは必要最小限にし、快適な速度を保つ)

以上の点に気をつけていくと高齢者の方にも優しい環境が整うであろう。

上記の四点を詳しく述べる。

色への配慮について、高齢者は若年者に比べ、近距離の生活視力が低く、矯正後でも 0.7 程度であり、暗いところではさらに 0.3 程度視力が低下する(75 歳以上の場合)。具体的に述べると、白背景の場合、黄、緑、赤、青、黒の順序で見やすくなる。黒背景の場合は、青、赤、緑、白、黄の順で見やすくなる。コントラストはできるだけ高くし、少なくとも 70%以上に保つようにする。文字の大きさは 19～26pt あたりがベストである。加齢と共に周囲の明るさが暗くなると、緑と青色が見にくくなる。

¹高齢者のパソコン・インターネット利用実態

言葉への配慮は、分かりにくい専門用語や外来語、略語は説明文を付けるか分かりやすい言葉に置き換える必要がある。言葉一つ一つにも気を配らないと高齢者はインターネットを利用しなくなる。

ナビゲーションは、自分自身が今どここのページを閲覧しているのか、どのページに行きたいのかをわかりやすくしなければいけない。見たいページに行きたいのに行けないという高齢者の気持ちに配慮しながら、ページを作成する必要がある。最後に、快適な速度についてだが、画像などをたくさん使うと読み込むのに時間がかかってしまう。時間ができるだけかからないように、画像などを最小限に収めるのも一つの手だが、高齢者にとってはわかりやすくするために画像も必要なので難しいところである。両者のバランスに配慮することが大切である。

次にアクセシビリティについて述べる。アクセシビリティとは、誰もが情報を取得・発信できる柔軟性に富んでいて、アクセスした誰もが同様に情報を共有できる状態 のことです。身体に障害があっても、問題なくウェブページを閲覧できるようさまざまな工夫が必要である。例えば、文字が読めない人でも音声読み替えソフトを使用することで、文章を聞くことができるように配慮することが望ましい。

3-3 タッチパネルでネットショッピング

前述したように、高齢者は、やはりパソコンを使って物を購入するまでにかなり時間がかかってしまう。パソコンの起動の仕方、キー操作、マウス操作など覚えることが沢山あり、高齢者には難しい。

そこで、パソコンでネットショッピングをするのではなく、パソコンに代わる媒体があれば良いのではないだろうか。マウス操作をなくし、タッチパネルで商品を購入できたら便利である。ネットショッピングをするためだけの媒体を作れば高齢者にもわかりやすい。細かな操作は一切必要とせず画面をタッチするだけで買い物ができるととても便利である。これからは高齢者がどんどん増えていく時代なので、いかに高齢者に優しい商品を提供できるかが重要だ。

最新の OS である Windows7 はタッチパネルに対応している。これをうまく利用すると、高齢者にも簡単にパソコン操作ができるのではないか。細かなマウス操作は必要とされなくなり、指で画面をタッチすればいいのだから、この機能が進化していくとパソコンを避けていた世代にも受け入れやすくなるだろう。

4. 高齢者社会を背景に

本章では高齢者の方が現在どのような生活を送っていて、高齢者の今後について述べる。

4-1 高齢者の生活

高齢者数は総人口の2割強を占めている中、どのような生活を送っているのだろうか。

5時間								
	1次活動		2次活動			3次活動		
	うち、睡眠		うち、仕事 うち、家事関連			うち、在宅型 余暇活動 うち、積極的 余暇活動		
男								
30歳台	10.02	7.33	8.46	7.17	0.33	5.12	3.06	1.00
40歳台	10.01	7.28	8.22	7.06	0.27	5.37	3.25	1.02
50歳台	10.18	7.37	7.45	6.31	0.27	5.57	3.43	1.01
60～64歳	10.53	7.55	5.19	4.05	0.46	7.48	4.43	1.34
65～74歳	11.28	8.21	3.42	2.34	0.56	8.50	5.42	1.35
75歳以上	12.26	9.09	1.57	0.57	0.58	9.38	6.52	1.14
女								
30歳台	10.17	7.21	8.23	2.54	5.06	5.20	3.02	0.50
40歳台	9.52	6.58	8.38	3.35	4.40	5.30	3.21	0.48
50歳台	10.16	7.11	7.51	3.15	4.18	5.53	3.33	0.56
60～64歳	10.47	7.31	6.37	2.06	4.22	6.36	3.59	1.06
65～74歳	11.21	7.58	5.19	1.08	4.06	7.20	4.40	1.04
75歳以上	12.27	8.58	3.04	0.24	2.40	8.28	6.15	0.43

出典：総務省 平成13年「社会生活基本調査」より

図1をみると、高齢者の1日の生活時間をみると、退職や子供の独立などにより仕事時間が短く、余暇時間が長いことがわかる。余暇活動時間（3次活動時間）をみると、男性は65～74歳が8時間50分、75歳以上が9時間38分と、共に1日の3分の1を超え、仕事に多くの時間を費やす30歳台から50歳台に比べ3時間～4時間半程度長い。

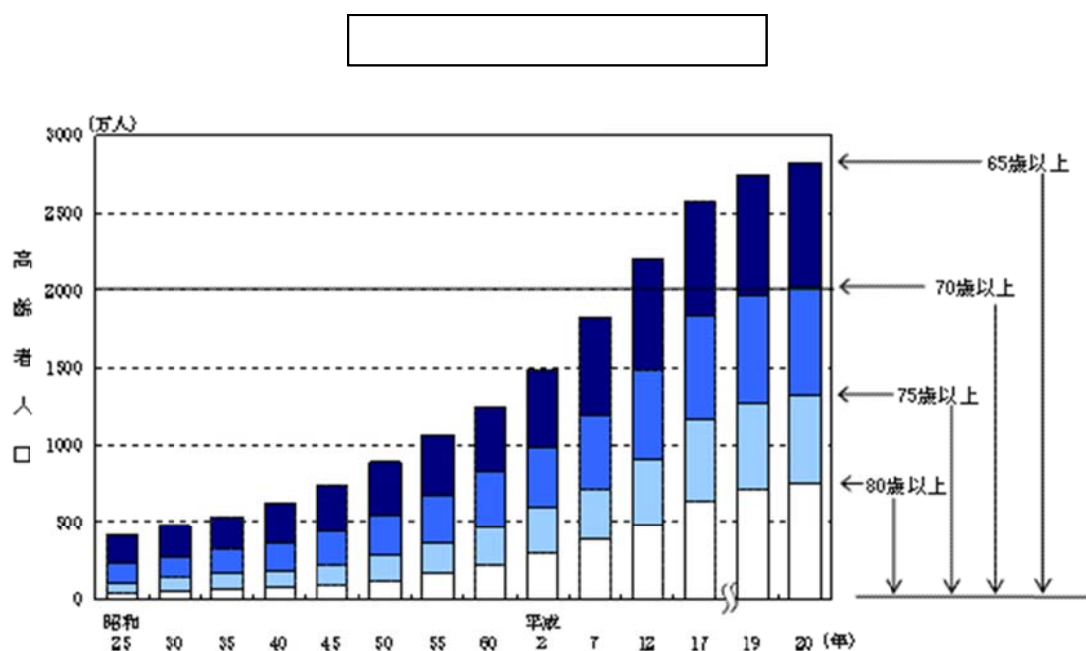
一方、女性は、65～74歳が7時間20分、75歳以上が8時間28分と、仕事や家事関連の負担の大きい30歳台から50歳台に比べ2時間半～3時間程度長い。また、仕事時間をみると、男性は65～74歳が2時間34分、75歳以上が57分、女性は65～74歳が1時間8分、75歳以上が24分と、男女共に前期高齢者（65～74歳）は後期高齢者（75歳以上）よりも仕事に費やす時間が長い。

そして、睡眠時間は、男女共に30歳台から50歳台に比べ、1時間～2時間程度長い。高齢者は時間にゆとりのある生活を送っていると言えるのではないだろうか。

健康で元気に生活している人もいれば介護を必要としている人もいる。高齢になって不便な生活をしている人は大勢いるだろう。いつまでも元気で暮らせるわけではない。だから私たち若者や国が高齢者に対して政策をしなければならない。

4-2 高齢者の今後

高齢者の今後の生活はどうなっていくのだろう。自由な時間がたくさんあり、お金にも多少の余裕がある高齢者だが、年を取るにつれ思うように生活ができなくなっていくのが現実である。また、高齢者の人口が増え若者の人口が減り、高齢者を支えなければならないのに人手が足りない現状を私たちは認識し、対策をしなければならない。



出典：総務省「高齢者の人口」より

図2を見てもらいたい。高齢者の人口の推移を見てみると、大幅に増えてきているのがわかる。65歳以上の人口は平成20年で2819万人である。この数は過去最高であり、日本は高齢化社会から抜け出せない状況となった。これからは高齢者を主役とした社会作りが必要となってくる。私たち若者は高齢者のことを考え、高齢者が暮らしやすい環境作りをしていく必要がある。若者よりも高齢者が多いことに対して、さまざまな問題がある。高齢者が増えることにより、介護を必要とする高齢者に対し若者の比率が合わなくなり、若者に負担がかかる。また税金の問題も深刻だ。高齢者が増えるということは私たちにとって決して良いことではない。平均寿命が延び、長生きをする高齢者が増えていることは大変喜ばしいことだが、それを支えていく若者が少ないと、負担になってくる。この問題はかなり深刻であり、少子高齢化をなんとかしなければいけない。しかし、そう簡単に解決する事ではない。だからこそ、高齢者が生き生きと生活できるように私たちが支援しなければいけない。

5. 高齢者を支える

高齢化社会が進んでいるため、私たち若者が高齢者に対し支援をしなければいけない。私たちは何をすべきなのかを述べる。

5-1 高齢者が快適な暮らしをするために

高齢者が快適な暮らしをするために、これからネットショッピングが必要になっていく。元気な高齢者でも雨天で外出するのが苦痛になったり、なんらかの不便さを感じるようになる。そんな時に、パソコンが使える、ネットで生活用品などが購入できたらどんなに便利だろうか。年を重ねるごとに、身体は衰え、いつまでも若い時のような生活が送れるわけではない。いつかは人の手を借りて生活しなければいけなくなる。人の手を借りて生きていくことは決して悪いことではないが、なんでも人にやってもらっていると老いも早くなり、高齢者にとっても良くない。買い物ぐらい自分自身で欲しいものを購入できれば高齢者にとってはうれしいことではないだろうか。パソコンを使う事が出来れば、外出することのできない高齢者でも趣味を広げることは可能だし、世の中の情報収集も簡単にできる。

しかし、ネットショッピングを利用している高齢者はごくわずかである。ネットショッピングという言葉自体を知らない高齢者も大勢いるだろう。しかし、このネットショッピングを利用すれば、自宅で買い物ができ、重い荷物も自宅まで届けてくれ、24 時間いつでも購入可能なので、自由な時間がたくさんある高齢者にも利用しやすいだろう。パソコン操作を苦としてパソコン自体を触ろうとしない高齢者にも分かりやすいように、指でタッチするだけで商品が購入できるという媒体（タッチパネル等）がこれから普及していけばネットショッピングを利用する高齢者も沢山増えるだろう。ネットショッピングをたくさん的高齢者が利用してくれれば経済効果も期待できるだろう。私たちは高齢者のことをもっと理解し、高齢者が快適な生活を送れるように支援していかなければいけない。

5-2 私たちの課題

私たち若者は高齢者社会をどの程度認識しているのだろうか。子どもの数が減り高齢者が増えているということはテレビや新聞などで知っていることだが、その事実をどこまで受け止めているだろうか。まだ実感が湧いていない人のほうが多いだろう。

このような状況に対して、国が政策をとるべきではないか。高齢者が便利な生活を送れるよう、私は以下のことを提案する。

- ・インターネットを今よりももっと簡単に利用できるようにシステムを開発する
- ・企業側も高齢者に対してユーザビリティやアクセシビリティを強化してもらう
- ・65 歳以上の高齢者に対して無料で PC 等インターネットができる媒体を提供する
- ・高齢者向けにインターネット講座などを頻繁に開く

- ・高齢者専用のネットショップを開発する

上記を詳しく述べると、インターネットに抵抗感を抱く高齢者が多いため、画面をタッチするだけで商品を購入できるシステムを開発することが必要だ。現在でもタッチパネルのPCは存在するがまだまだ初期段階であり、私たちにとっても、高齢者にとっても使いづらい。ただの遊び感覚の機能でしかないのだ。このタッチパネルの構造をもっと進化させることにより、沢山の高齢者が救われるだろう。高齢者向けの媒体を開発することにより、高齢者の生活はぐっと良くなるだろう。使いやすい、分かりやすい、見やすいなど高齢者の視点で物事を考えていく時代にならなければいけない。多くの人々は分かっていると思うが、行動に移せていないのが現状ではないだろうか。

タッチパネルが普及し、日常的に利用されるようになると、今まで以上に高齢者がネットショップを利用してくれるだろう。

また、PC等の媒体は高価であるため購入しにくいケースもあるので、国の政策として無料で提供できれば良い。無料で提供したとしても、ネットショップで買い物をしてくれるのであれば、経済状況も安定し、損はしないだろう。今は高齢者の数が圧倒的に増えているので高齢者向けのビジネスを展開すれば国はもっと豊かになるだろう。

ただ、無料で提供するためには税金が必要だ。平成20年度では高齢者数が2819万人に上っている。65歳以上の高齢者世帯に一台提供するとして、一台あたり約5万円で計算してみると約1兆4095億円必要となる。この資金確保も今後の課題となる。しかし、最近では子ども手当が支給されることが決定した、この金額は総額5兆3千億円である。子ども手当と比較してみると高齢者世帯に一台PC媒体を提供すること自体は簡単なことではないだろうか。未来の子どもたちのために支援をすることは決して悪くはないが、目の前にある高齢化問題についてもっと具体的な政策をしなければいけないのではないだろうか。高齢者の生活を確保し、住みやすい環境を作りあげることが今一番にしなければいけないことだ。

そして、ネットショップがいかに便利で生活の手助けをしてくれるということを高齢者に伝えなければならない。

近年、高齢者の孤独死も問題とされている。一人暮らしの高齢者に多い孤独死だが、死後一カ月以上経って死亡しているのを近隣の住民や親族などが発見するケースが多い。この問題は深刻であり現在、政策をとっている最中である。この孤独死の問題も、インターネットを利用していけば、早期に発見することができ、死に至る前に救えることもあるだろう。なぜなら、ネットを頻繁に利用しているか、少しの期間利用されていないなど、ネットの利用状況を、市や区が確認できるようにすることにより、高齢者の生死を24時間体制でできるようにすればよいのだ。ネットを通じてすべての事を管理できるようにすれば孤独死の問題は解消できるだろう。また、ネットで繋がっているという安心感も高齢者に与えることができる。ネットにはまだまだ未知の可能性をたくさん秘めている。高齢者に

とって私たちにとっても快適な暮らしをするためには、ネットの進化は必要不可欠である。

ネットショップの利点を高齢者に伝え、より多くの高齢者にネットショップが高齢者の生活に必要なのか今から伝えていかなければならない。後は、高齢者がどのようにすればネットショップを利用してくれるかが問題だが、やはり、ユーザビリティやアクセシビリティの二つの要素が重要になってくるのではないだろうか。高齢者はインターネットに対して、抵抗感を持っているので、それをなくすためには、高齢者の意見を聞き入れ、今存在する媒体よりも手軽なモノを作ることが必要だ。ネットショップは拡大していくばかりで、高齢者に対しての配慮が欠けている。高齢者専用のページを設け、色の配慮、文字の配慮、すべてにおいて新たなネットショップの世界を広げることが必要だ。

ネットショップ利用率を上げる鍵は高齢者が握っているので、これからは高齢者をターゲットに何事も進めていくべきではないだろうか。高齢者を救うためには現在のネットショップではなく、上記で述べたことをとり入れたネットショップが絶対に必要だ。このネットショップにより多くの高齢者が幸せに暮らせるのだ。

6. おわりに

この論文を通して多くの人が高齢者社会に対しての危機感を持って頂けたら良い。いかに高齢者社会が深刻であり、高齢者の立場になって物事を考え、行動していかなければならないかを改めて考え直してみると、また新たな発見があるだろう。高齢化社会は誰にも止めることはできない。現実を見て、今やらなければならないことを自分自身で考えることが必要だ。若者たちが、高齢者に対してもっと興味を持ち、支えなければならないという考えを持って行動していけば、高齢者にとってもわたしたちにとっても暮らしやすい豊かな生活が送れるだろう。簡単なようで難しい問題だが、私たちの努力により日本は高齢者社会から抜け出せるだろう。そのためにはやらなければいけないことは山ほどあるが、一人ではなくみんなで考え協力していけば新たな道が開けるだろう。

参考文献

書籍

- [1] 秋山登代子, 音好宏(1997) 『ふれあいのネットワーク：メディアと結びあう高齢者』, 東京 日本放送出版協会
- [2] 竹内謙礼(2008), 『ネットで売れるもの売れないもの』, 東京 日本経済新聞出版社
- [3] 藤崎泰造(2005), 『ネット通販でダントツ一番にする法』, 東京 同文館出版
- [4] 樋口康彦(2008), 『崖っぷち高齢独身者』, 光文社新書
- [5] 金子 勇(2006), 『少子化する高齢化社会』, NHK ブックス
- [6] 金子 勇(2002), 『高齢化と少子社会』, ミネルヴァ書房
- [7] 玉井 金五 久本 憲夫(2008), 『少子高齢化と社会政策』, 法律文化社
- [8] 紀藤 正樹(2002), 『失敗しないネットショッピング』, 岩波アクティブ新書
- [9] 猪口 邦子 勝間 和代(2002), 『猪口さん、なぜ少子化が問題なのですか?』
- [10] 藤田 綾子(2002), 『超高齢社会は高齢者が支える』, 阪大リーヴル
- [11] 佐藤 幹夫(2009), 『ルポ 高齢者医療―地域で支えるために』, 岩波新書

URL

- [1] ユーザビリティとは?
<http://www.usability.gr.jp/whatis.html>
- [2] ユーザビリティコラム
<http://www.bebit.co.jp/column/>
- [3] インターネットショッピング 2007 調査報告書
<http://web-tan.forum.impressrd.jp/e/2007/12/28/2323>
- [4] ウェブアクセシビリティの基礎の基礎～高齢の方に毛嫌いされないために～
<http://www.webaccessibility.jp/basic/senior/>